

第5回グレード・アップ「ナリタ」活用戦略会議

日時：平成24年9月5日午前10時～

場所：ポートプラザちば ロイヤル

1. 知事あいさつ

- ・本日は、事務局から本戦略会議の提言案をお示しする。積極的な御意見を賜りたい。
- ・本戦略会議は、この提言を取りまとめることでその役割を終えるが、今後、本日御出席の皆様を初め関係者の皆様の様々な経済活動を通じて、高いポテンシャルを持つ成田空港を活用し切ることが30万回化の本当の根幹だと考えている。
- ・今後、私も皆様とともに力を合わせて、県経済活性のために力を尽くしたい。

2. 第4回会議（視察）の概要について（報告）【資料2】

- ・7月12日、13日に第4回グレード・アップ「ナリタ」活用戦略会議として視察を行い、中部国際空港利用促進協議会の事務局である名古屋商工会議所及び中部経済連合会、松山空港利用促進協議会の事務局である愛媛県庁、高松空港振興期成会の事務局である香川県庁を訪問した。
- ・中部国際空港は成田と同様、国内外にネットワークを有する国際拠点空港として、また、松山空港と高松空港は、成田から路線が引かれていない四国を代表する空港として、それぞれ促進協議会の活動内容等について調査するとともに、関係者との意見交換を実施した。
- ・今回の視察では、いずれの利用促進団体においても、路線維持、利用促進が極めて重要な業務となっており、また、特に観光資源を活かしたモデルルートを作成や観光プロモーションの展開なども積極的に実施していて、国内線の拡充が進む成田空港にあっても大変参考になった。

3. 会議提言について【資料3の1・3の2】

- ・本提言は、第2回の会議の庁内プロジェクトチームからのプレゼンテーション「成田空港を活用した経済活性化のための4つの戦略」をベースに、委員の皆様から御議論をいただいてとりまとめた。
- ・戦略の策定においては、近年の成田空港を取り巻く環境の変化、これを強み

と弱み、機会と脅威という形で整理し、まず、3つの戦略を立てた。

戦略1は「30万回化で拡大する人・物・財の流れを活かす」、戦略2は「県内外と成田のスムーズな人・物の流れを強化する」、戦略3は「成田空港をはじめとした千葉県の様々の宝を積極的に発信する」である。この3つの戦略を推進する取組には、行政が行うものもあれば、経済団体、環境事業者、交通事業者、空港関連事業者などの民間事業者の方々が取り組むものもあるが、複数のプレイヤーが連携して総合的に取り組むことによって相乗効果、効率的に推進できるものもある。そのため、この3つの戦略に集中的、総合的に取り組むために、行政と民間が連携した新たな組織が必要となる。そこで、「(仮称)成田空港活用協議会」の設立を目指すことを内容として、戦略の4「成田空港の活用に向けて総合的に取り組む」を掲げた。

4. 意見交換概要 ※発言順

○森田知事

・千葉は東南アジアで全く知られていないといっても過言ではない。私は台湾にもPRに行ったが、あれだけ親密な国でも、千葉を知らない。日本人というのは一過性だと思われているところがある。継続は力という言葉があるが、私たちが一致団結してPR、観光や経済交流などを継続的に行う必要がある。

○千葉県レンタカー協会 岡田副会長

・レンタカーは、全国で43万台ある。自動車の新車販売が低迷している中で、レンタカーは毎年右肩上がり増加している。

・千葉県のレンタカー協会は96社が加盟、1万1000台を保有している。

成田に関しては、成田空港協議会にレンタカー会社6社が入っている。

・成田空港の状況としては、関西圏から成田空港に飛び、成田から鹿島の工業地帯にレンタカーで向かうビジネスユースが多い。一方で、格安航空が入ったことによって、レジャー客も相乗効果で増えている。

・レンタカー業界としては、格安航空の増便、また、圏央道の成田までの区間の開通をぜひお願いしたい

・災害の際など、レンタカー業界と県と連携を図ればと考えている。

○経済協議会 花田会長

・グレード・アップ「ナリタ」活用戦略会議を開催して、このような提言をま

とめたことについては、千葉県経済協議会としても大いに評価するところ。

・本日の提言で示された成田空港を活用した経済活性化のための4つの戦略については、今後、具体的にこれの実現に向けて幅広く外部からの意見も取り入れた上で具体策を策定し、実施していくことが必要である。このためには、県を初め、県内の経済、物流、観光、交通などの関係団体が連携して取り組んでいくことが重要であり、成田空港活用協議会を設置することについては大いに賛成であり、経済団体として協力させていただきたい。

○経営者協会 平山副会長

・グレード・アップ「ナリタ」として、千葉県森田知事を初めとして、成田空港に対する思いをこういう形で推進していただいたことに大変感謝している。

・第4回の会議で視察に行ったが、どの空港も開港前から路線誘致・利用促進に大変努力されている。残念ながら、成田空港は当初から不幸な歴史を持った空港だが、他の地方空港から見るとうらやましい限りだと盛んに御意見をいただいた。最終的に、このグレード・アップ「ナリタ」活用戦略会議が、活用協議会として今後推進していくという結論を出していただき大変感謝している。

・LCCの就航により、お客が増えた、賑わいが出たという感じを持っている。一方、初日に欠便、欠航があり、LCCに対するイメージが悪かった。やはり、成田空港の騒音下の住民への十分な対策を前提に、条件整備をした上での深夜早朝時間帯の1時間の延長を推進していただきたい。

・検問も、空港自体が1つの商業施設として活性化していくためにもぜひ検討願いたい。

・IRについては、地元成田でIR推進協議会が既にスタートしており、そういったものも含めた成田空港の全面的な発展、進展を期待している。

○経済同友会 佐久間代表幹事

・森田知事、県の働きかけにより、このような検討の場を持てたことは大変意義深い。千葉県経済がさらなる発展を遂げるためにも、成田空港の成長は必要不可欠だが、今回の提言における成長に向けたアイデアは、網羅的に、また、よく整理されていると考える。今後はいかに具体的に進めていくかが肝要だ。

・戦略4の成田空港活用協議会については、全県一丸となった組織の立ち上げであり、千葉県経済の活性化に向けて官民のより強固な連携、協力のもと進めていかなければならないと考えている。同友会としても、積極的に協力させていただきたい。

○商工会議所連合会 石井会長

・この会議は、第一回から様々な意見が出ていたと思うが、よくまとめたという評価を最初に申し上げたい。

・台湾に行って感じたことだが、知事から話があったように、やはり千葉は知名度がなく、やはり成田であって、成田の県が千葉、と台湾の人も理解している。今回、台中を訪問し、市当局と懇談した際、台中に飛行場を作っており、成田に乗り入れたい、だから、千葉県とも経済交流をしたいということを中心に強調された。台湾は先端産業が多いが、一番集まっているのは台中である。今後、重点的に交流をしたいと考え、先週、会議所内でも、台湾デスクや東南アジアデスクなど、窓口を決めて今後進めたいという提案をしたところ。

・圏央道はチャンスであり、県政の最大課題だと思う。圏央道ができれば成田への距離というのは大変短くなる。今後設立予定の協議会の中でも重点課題にするべきと思う。

・特にアジアの国では、成田と言えはすぐわかってもらえる。県としても、この利点を活かし、経済活性化をしたらよいのではと考える。今回の協議会の立ち上げが、そういった面で大いに期待できる。

・台湾は非常に居心地がよい。お互いの国に対する好感度も高く、ぜひ交流を進めるべきであり、今回の協議会で取り組むべきと思うが、教育の視点が欠けている。森田知事が道徳教育に取り組まれているが、台湾へ行って居心地がいいのは、教育のおかげではないか。今後、千葉県が観光県として打って出る際、観光受け入れ教育といったものを充実させてはどうかと思う。

○商工会連合会 花島会長

・成田空港の経済活性化戦略については、このチャンスを十分に活かして検討を進めていただき、我々も経済の活性化につなげていきたい。

・我々の商工会は成田空港から離れた地域が多いため、4つの戦略中、戦略2の②「空港から県内外への交通アクセスをさらに充実させる」という項目は特に充実させていただき、観光地としての外房、内房の商工会の方々と経済活性化を図っていききたいと考えている。

・活用協議会設立については、想定される活動内容も広範囲であるようなので、事務局の設置も必要かと思うが、是非、県の積極的な協力をいただきたい。

○中小企業団体中央会 坂戸会長

・成田空港の発着枠30万回拡大という絶好の機会を利用し、千葉県の発展の

可能性を探り、またそれをビジネスチャンスの拡大につなげていく必要がある。中小企業団体中央会としても大きな課題ととらえており、事あるごとに議論、検討をしている。

・知事が文字どおり先頭に立ち、強力なリーダーシップを発揮したこの会議に、大きな期待を持って参加したが、提言案を聞き、県内企業が成田空港を活用するという視点から記述をしていただいたことに感謝する。当団体の会員企業は中小企業なので、その中小企業がこのチャンスをどう活かしていくかが課題である。今まで以上に連携・組織化をして、チャンスを活かしたい。

・戦略の4の活用協議会の設立については、戦略1から3を実現するための具体策を行政・民間が一体となって、オール千葉でアイデアを出し合おうということだが、中央会にとっても、積極的に参加し、1つ1つの小さな企業の意見をしっかりと伝え、視点を取りこんでいくことに役立ちたいと考えている。

○芝山町 相川町長

・当町も、世界の人・物・文化といつでも接続できるまちづくりを進めている。成田空港により国、地域、個人がいつでも世界と幅広く接することができており、それは大きな魅力の一つと思う。

・戦略の2の①「空港利用者の快適性の向上を目指す」のうち、空港での検問の「警備の質を確保しつつ、入場者の負担軽減」については、警備すべきところは一層厳しく、一般来場者については検問を行わないなどが最も望まれていることと思う。時間をかけず、早急に対応を願いたい。

・世界から多くの人々に日本を訪問していただくことが重要。日本には固有の財産、歴史といった魅力が沢山あり、千葉県にもそういった魅力が数多く存在する。それをアピールする必要がある。千葉県には、日本を代表する2つのディズニーもあり、多くの人々が訪れているという実績もある。成田空港周辺にも、そういった世界にアピールできるような場所・施設があれば、千葉の魅力となるとともに、成田空港を世界の人々に活用してもらえと思う。例えば、世界的にも子供に人気のあるスポーツ、例えばサッカーワールドの建設などにより、スポーツを通じた空港と地域との活性化を図ることができるのではないか。世界のサッカー人口は多いので、更なる発展が見込まれる。国際空港としての成田の強みを活かせるのではないか。ぜひ検討願いたい。

○多古町 菅澤町長

・成田空港の経緯では不幸な時代もあり、空港の建設、騒音対策といったこと

に終始してきたきらいもあるが、発着枠30万回の合意をもとに、こういった議論がされていることはうれしく思う。

・他の委員の方からも出たが、圏央道の整備は1日も早く実施し、完成され、かつ、東関道の空港線のように、成田空港と最短コースでの接続を是非お願いしたい。また、一つの案として、多古町と圏央道の要所となる部分にインターを設置し、パークアンドライドなど設置し、災害基地を含めた拠点づくりをできれば、成田空港の東側についてもバランスがとれた発展が望めるのではないか。今後、議論していただき、方向性を出していただきたい。

・発着枠30万回については、市町村も、騒音対策や航空機の小型化が進む中、地域住民の御理解をいただいて合意に至った。今後は、空港機能だけでなく、周辺整備にも目を向けてもらいたい。

・ヨーロッパの空港、例えばミュンヘンなどでは、時間ぎりぎりに来た人について、別枠での手続や、タラップまで乗用車に乗せるなど迅速に対応していると聞く。国内線からの乗り継ぎの場合は特に、フライトの短さに比べ待ち時間が長く感じるので、空港会社はぜひ施設の機能性の向上を早急をお願いしたい。

・開港から30年間、騒音対策が主体となってきて周辺行政が直接関わってきた経緯が少ないためか、行政間の大きな格差が生じてきていると感じる。空港周辺自治体と、地域のバランスの取れた振興も図っていかねばならないと考える。そのためにも、提案のあった警備の問題を含めた改善が急がれる。よろしくをお願いしたい。

○成田市 藤田副市長

・すばらしい提言をまとめていただき、千葉県のリダーシップと御尽力に感謝する。

・1点目に、活用協議会の設立につき、戦略の大きな1つとして掲げていただきありがたいと思う。成田空港の飛躍の原動力として大いに期待するとともに、成田市としても積極的に参加したいと考えている。特に就航先との相互交流は是非推進していただきたい。

・2点目に、検問の記載については、小泉市長が様々な場で言ってきたことでもあり、大変喜んでいる。例えば鉄道やバスといった公共交通の利用者に配慮いただければありがたい。

・3点目に、カーブユーの弾力的運用の記載があるが、課題認識として持っているが、一方で、30万回の合意の際の環境対策の制度設計がまだ残されてお

り、その約束を果たす事が非常に重要と考えている。現在、県・N A A・関係市町村等の間で調整中だが、さらに検討を進めることが必要と考える。

○ J R 東日本 鈴木室長

・千葉市支社管内では、現在、まだ利用状況が震災以前の水準に戻っていない。特に成田については戻りが遅れている。今後、圏央道等の道路の整備等があることもあり、利便性を考えて一層の努力をしていきたい。

・そのためには、まずは成田を元気にしていかなければと考えており、今回の提言を受け、活用協議会については当社も参画させていただき、協力できるところできちんと考えていきたい。

○京成電鉄 神子田常務

・本会議の趣旨に沿って提言としてまとめられた4つの戦略については高く評価するところであり、関係者の御努力に敬意を表したい。

・当社は公共交通事業を担う事業者として、成田スカイアクセスの開業に伴い、都心から36分というキャッチフレーズのもと、都心から成田空港間の発着本数を200本以上、従来の約1.4倍とした。また、バスアクセスについても、1便当たりの乗車人数を見ると、羽田と比較してもほぼ遜色のない数字となっている。L C Cの就航に際しては、鉄道では早朝深夜の臨時特急の増発、バスでは早朝深夜を含めた時間帯や価格でL C Cに対応した低料金の新規路線の開設など、迅速な対応を実施し、成田空港の利便性向上に努めてきた。今後も、成田空港の需要動向に合わせ、お客様の利便性向上に資するきめ細やかなダイヤを引き続き検討していきたい。

・今後、本提言の内容を着実に実現していくことが重要だと考えるが、一方で、先ほども話があったように、成田空港自体及びその周辺の魅力を一層高めていくことにも継続的に取り組む必要があると思う。これは成田空港緊急戦略プロジェクト会議の目的でもあった。今回の提言にある活用協議会の中に専門の部会を設置し、学識経験者の参加を求めて経費の問題や商業施設を増やすなど、色々な角度から成田空港そのものの魅力を高める方策を検討することも重要だと考える。これは、第4回の会議で、中部国際空港等を視察した際の体験からも、空港自身の魅力を高めることが大切と感じた。

・交通事業者として、今後ともさらなる成田空港アクセスの向上に取り組んでいくほか、戦略3の成田空港へのアクセスのイメージの改善などについても、イメージアップ・P Rに取り組み、千葉県経済の全体の発展に貢献していきたい

い。

○千葉県バス協会 大室会長

・バス協会としての意見・提言について、今回の提言に反映されており、感謝している。

・バスアクセスの速達性向上や運賃の低廉性の実現には、今後さらなる道路網の整備促進が必要と考える。提言にもあるが、北関東方面との人・物の交流促進も重要であり、そのためには圏央道の早期整備促進が不可欠である。また、松尾・大栄間のミッシングリンクが整備される際、圏央道にパークアンドライドの施設を検討していただきたい。そういったものがないと、成田空港から木更津まで通過することになる。県内の各地の地域活性化のためには、各地域にパークアンドライドシステムを構築する必要があると考える。

・成田から山梨、神奈川、静岡といった地域に行くには全て首都高を経由するため、それがネックになっている。避けるためには、特に神奈川、静岡方面の場合、圏央道からアクアライン経由で横浜に行くこととなる。一方、横浜から東名に結ぶ保土ヶ谷バイパスは終日渋滞が激しく、時間がかかる。他県のことではあるが、横浜から東名方面に結ぶ高規格道路の整備が防災の面から必要と考える。千葉県の議論の部分も神奈川方面に反映できればとも思う。

○タクシー協会 道祖尾会長

・我々タクシー業界は、常日頃、公共交通機関として県民の方の足として利用いただいているが、先日、災害時の緊急輸送機関として、千葉県と災害協定を結んだ。いざという時の県民の皆さんの足として役立ちたいと考えている。

・今般の4つの戦略の中には、ビジネス観光の目的地の育成、魅力向上や、海外からのインバウンド客誘致、LCC、国内線旅客の県内観光地への誘導などが挙げられている。また、県内へのMICE、国際会議などの誘致もある。そういったところに集まる様々な方を対象に、例えば、観光タクシー等により経済活性化等に少しでも貢献できればと考えている。今後の協議会の中でも、何ができるか考えていきたい。

○日本旅行業協会千葉県地区委員会 中村委員長

・提言中、特に観光・ツーリング産業に関わる場所は積極的に協力したい。

・旅行業協会関東支部では、一都九県で活性化に向けて広域展開しようという議論が今始まっている。第4回の視察の際、中部で広域観光ルートの造成という話があったが、観光県として、やはり、千葉県単発ではなく、広域展開が必

要という議論をしている。連携についても、今後の活用協議会を活用できればと考える。

・今、旅行・観光もお客様の価値観がかなり変わっており、やはり従来通りの観光より、今は新しいもの、近くで作っていくという必要性があると考えて取り組んでいる。そういった中、提言には千葉県のブランド等、色々な言葉が入っているが、仕掛けるにしても一過性ではなく継続性を持たせることが必要であり、色々な千葉県の素材を結びつけ、ストーリー性を持った企画・仕掛けが必要と思う。そのためには、県はもちろん、市町村、各団体の協力が必要であり、今後、活用協議会でやっていければと考える。

・教育旅行の記載があるが、修学旅行も、従来型のどこかに行って何かを見る、といった形から、子供の成長を考え、子供に何を感じさせるのかという視点から企画を考えるようになっている。例えば、今は防災の教育プログラムがあり、千葉県は被災県であるので、そういったプログラムを活用する教育旅行も考えられる。こういったことは旅行業協会がまさに専門なので、今後やっていきたい。県には、不可欠である安全面の環境整備をお願いしたい。

・今後も、活用協議会を含め、日本旅行業協会として会員の会社と連携を取りつつ、成田空港の活用・活性化に向けて是非取り組んでいきたい。

○千葉インバウンド促進協議会 池田会長

・先日の知事のタイへのトップセールスの後、既に色々なオファーが来ているとも聞いており、今回を契機にタイとのパイプを太くしていけたらと思う。

・インバウンド観光については、おおむね提言に織り込んであると思う。レンタカー協会が参加しているのも心強い。ただ、今後は、提言だけでなく、具体化が重要であり、様々なハードルがあろうかと思うが、ぜひ実行に移してもらいたい。

・成田空港は着陸料が高いと報道にも出ており、LCCにはコスト負担と聞いている。長い目で見直しを進めていただき、30万回の実現を目指していただきたい。アクアライン800円も知事の英断で実行し、交通量も増えてきている中、着陸料の見直しについても検討していただきたい。成田からの訪日旅行客の増加はインバウンド協議会としても重要な課題である。

○ちば国際コンベンションビューロー 石井専務理事

・大変短い間でスピード感を持って提言をまとめられた関係者の方々の御努力に敬意を表したい。

・実は昨日から韓国のメディアを南房総に案内している。また、先日のタイの知事のトップセールスには、フィルムコミッション、つまり撮影の誘致の関係で職員が同行した。外に出て千葉や成田空港をPRすること、また、向こうから来てもらって積極的な提案をすることの両面が必要なのではと思っている。ビューローは小さな団体なのでそう大きなことはできないが、確実に取り組んでいきたいと考えている。

・圏央道の早期整備の話が出ているが、圏央道ができると北関東とのアクセスが非常によくなる。そうすると、成田と羽田での北関東のお客の取りあいも考えられる。県域を越えたPRというのも必要であるし、活用協議会に参加してもらうかは別として、北関東エリアの県との関係も検討する必要があるのではないか。

・戦略4で活用協議会の設立が提言された。空港を活用した経済・地域の活性化は、視察でも感じたが、経済的な運動だと思う。継続的に、連携して運動することが重要であり、そういう意味では、事務局の役割は非常に重要となってくる。柔軟で運動を支え切れるような事務局の設置が望ましいと思うし、できるだけ多くの方々の協力で事務局が構成されるのがいいか考える。我々は小さな団体だが、できるだけ協力していきたい。

○成田国際空港航空会社運営協議会 池辺事務局長

・まずは、このグレード・アップ「ナリタ」活用戦略会議の航空事業者へのサポート、御支援について深く感謝申し上げたい。

・LCCの就航に際しての自治体のバックアップ等もあり、航空旅客が着実に伸びてきている。震災後、落ち込んでいた航空旅客も、最近になって一昨年レベルまで、また、それ以上に戻ってきている。7月の運航状況は1日平均で約580便の到着・出発便があり、年間にすると約21万2000回となる。9月以降も新規の航空会社の乗り入れや既存の航空会社の増便も予定されており、おそらく21万から22万回の離発着になると思われる。

・一方で、最近、空港に来られた方は感じるかと思うが、ロビーや駐車場など、かなり込み合ってきている印象がある。また、CIQや出発便、到着便の遅延も発生してきており、22万回というのは、30万回の7割に当たる数字だが、現在でもこういった若干の障害が発生してきているので、30万回化に向けては、提言にもあるように、航空利用者の利便性、快適性の向上が不可欠と考える。今後の着実な実行に向けて取り組んでいただきたい。

○航空貨物運送協会 飯田空港対策委員長

・まず初めに、昨今の航空貨物の状況について少しお話ししたい。私が入社したのは1980年、そこから24～25年の間は、この業界は右肩上がりに成長してきた。しかし、2004年前後、成田空港は220万トンの貨物の取扱量があったが、2011年実績では193万トンとなり、ピーク時から30万トン、率にしては15パーセント前後減少している。ピーク時には成田空港周辺のフォワーダー施設は満杯状態で、今後どうするか、さらに施設を整備しないとパンクするのではという危機的な状況だったが、リーマンショック以降は荷が減少し、通常の航空貨物を扱う上では、各業者ともかなり余裕が出てきているという状況にある。

・そのため、発着枠や便数が増加しても、航空機の貨物スペースが空いたまま飛んでいるという状況になるのではと非常に危惧している。提言にもあるように、成田空港周辺の臨空型の工業団地整備など、産業を呼び込んでいかないと、航空貨物は成長していくのが難しいし、業界自体も縮小してしまう。関連産業を呼び込み、そこで付加価値の高いもの、例えば半導体や、季節性に左右されるアパレル関係といった高速な処理を必要とするものをそこでさばくといったことが、今後、我々業界が生き残る方法かと思う。まずはそういった産業を集積させることが重要であり、また、これは一朝一夕にはできるものではないため、一刻も早く取りかかり、実現させていくことが喫緊の課題と考える。

・戦略4の成田空港活用協議会の立ち上げについては、官民一体の組織、活動内容といったことで、趣旨、方向性ともに賛同する。羽田空港に関しては、この夏、2010年10月の国際化以降初の国際貨物の定期便が台湾との間に就航した。羽田空港は貨物についてもかなり力を入れており、できるだけ早い段階で、協議会の部会を立ち上げ、実効性を伴うような活動をやっていく必要があると考える。

○国土交通省成田空港事務所 中坪成田国際空港長

・今回、会議に参加して空港を取り巻くいろいろな方々の生の声を聞く機会があったことに感謝する。また、提言に関しては、やはり、空港の発着回数の増加を前提としており、強い期待を聞かせていただいて感謝するとともに、一方で大きなプレッシャーも感じる。提言にある経済活性化戦略を実現していくためにも、発着回数増加を実現できる空港運用、航空管制運用といったものが必要であり、その実現のためには、施設整備についてはNAAといかに連携してやっ

ていくかが必要であるし、管制運用については、航空局内部での様々な検討が必要と考える。

・ただ、サービス提供側の努力だけで回数増が実現できるものではなく、例えば、人が集まれば混雑が生じるものなので、それを防止するような努力をお願いしたい。そのためにはサービス提供側である航空局、空港会社、利用者であるエアラインや様々な関係の方々と協力・情報共有・連携が必要と思う。今後はそういった面の活動を空港内外に展開していきたい。活性化に向けて、我々も支えるということで努力していきたい。

○成田国際空港株式会社 深谷代表取締役副社長

・まず初めに、この提言を取りまとめられた森田知事のリーダーシップ、委員の皆様、事務局長の坂本副知事を初め関係の皆様には感謝を申し上げたい。

・2010年の7月に成田空港緊急戦略プロジェクト会議の中間取りまとめがあったが、その後、同年10月に、知事、そして地域の皆様の御理解をいただき、30万回までの空港容量拡大の合意に至った。成田空港が飛躍的に発展するための原動力と考えている。これについても、改めて御礼を申し上げたい。

・成田空港は、空港容量の拡大に伴い、マルチファンクション・エアポートとして、多機能な空港を目指している。今年の春はビジネスジェットの受け入れ体制強化のための専用施設、今月の12日は、LCCの乗り入れに対応するための第2ターミナルビルの南側の待機施設を開設しており、同ターミナルビルの北側にも同様の施設を整備中で、10月には供用予定である。今後、本格的なLCCターミナルの整備を進めたいと考えている。空港容量の拡大に伴い、今後も各種の施設整備を進め、能力増強を図っていくことが空港会社の責務と考えている。

・現在、国においては、成田空港が年間27万回対応となる来年の夏ダイヤに併せたオープンスカイ政策が進んでいる。現在まで、15か国3地域の間で、協定が結ばれた。ボストン線など新規就航路線が実現したが、今後も、デンバーやサンノゼにも具体的に就航が予定されている。また、既存路線の増便も含め、成田空港の基軸ともいべき国際線ネットワークのさらなる拡大、発展が見込まれていることを御報告しておきたい。

・話題になっている国内線については、昨年以降、大幅に輸送力が増強された。現在、国内13空港と毎日55便で結ばれている。12月以降の今年の冬ダイヤでは、さらなる増便が予定されているところもある。国内線の充実について

は、先発のJAL、ANA、アイベックスに加え、スカイマーク、ジェットスター・ジャパン、エアアジア・ジャパンの新規乗り入れが大いに貢献していると考えている。今後、これらの3社については国際線にも進出予定と聞いており、国際、国内ともに先発航空会社と併せて選択肢はさらに広がると思う。観光やビジネスの足として千葉県民の方々にさらに活用していただく機会が増えると考えている。

・LCCについては、多様なニーズに対応した様々な使い方ができるということで各方面から注目されているが、成田空港への就航に伴い、空港運用自体についても各方面から様々な御意見をいただいている。これについては、提言の中でも、住民生活への影響など環境に十分配慮しつつ検討すべき課題といった形で取り上げられている。当社としても、30万回に対応する騒音対策の推進はもとより、これまで同様、地域との約束を果たしていくことが重要だと考えている。その上で、空港の効率的な運用に関して、関係者間で検討を進め、理解を深めていただければと考えている。

・本会議では、本日も含め、委員の方々から空港の入場検問に関し、大変貴重な御意見を多数いただいた。当社としても、空港利用者の快適性向上は重要と考えており、空港へのスムーズな入場の実現に向け、関係機関との前向きで具体的な協議をしたいと考えている。引き続き、皆様の御理解、御協力を是非いただきたい。

・また、成田空港と直接結ばれる道路アクセスについては、経済活動に不可欠であるといったことや、知事のリーダーシップによるアクアラインの料金引き下げの話、道路整備の進捗といった様々な話があったが、道路アクセスがつながることで、初めて様々な力が発揮され、周辺の市町村とも一体となると考えている。成田空港の発着数と人・物の流れが今以上にスムーズかつスピーディーになるよう、道路アクセスの早期整備については、皆様と一緒に関係者の方々に色々働きかけをしていきたい。

・提言に成田空港活用協議会設立の必要性が盛り込まれている。県民の皆様成田空港を活用いただくための方策や、成田空港のポテンシャルを県内経済の活性化に結びつけていくためのプロセスといった視点から設立を目指すということだが、当事者である空港としては、大変心強いサポート、頼もしい御理解と思い、期待をしている。本会議を通じ、皆様の成田空港に対する様々な思いを聞かせていただいたが、それを改めて受け止め、今後とも、千葉県経済活性

化のために皆さんと一緒に進んでいきたいと考えている。

・今後も、成田空港は、日本の拠点空港として機能しつつ、国際的な競争力を促進するための重要なインフラとして発展していくために、皆様や地域の皆様と一体となり、県民の皆様に誇っていただけるような空港となるよう引き続き努力していきたい。まさに、快適で利便性の高い空港を目指して、弊社としても目一杯努力をしていきたいと考えている。

5. 提言とりまとめ

(全員一致で資料3-1・3-2のとおり提言を取りまめることとした。)

6. 会議のまとめ(知事)

・御多忙の中、5回にわたる本会議に御参加いただき、厚く御礼申し上げます。

・昨年末の立ち上げ以降、前回の成田空港緊急戦略プロジェクト会議と同様、手探りの状態のところもあったが、皆様の御意見のおかげで提言をまとめることができた。私自身、皆様からの御意見を聞き、どうやって成田空港という千葉県の宝を活かしていくのかについて見識を深めることができた。

・提言の取りまとめがゴールではない。これが始めであり、ここから出発だという気持ちを持つということが重要。成田空港をさらに活用し、経済活動を盛り上げていくことを目標に掲げ、また、今後、皆様と立ち上げを検討していく活用協議会においては、民間会員の皆様の御意見を踏まえ活動していくことを考えている。一致団結して成田空港、そして千葉県のために頑張っていかなければならない。